

口は健康のもと Vol.194

歯の痛み

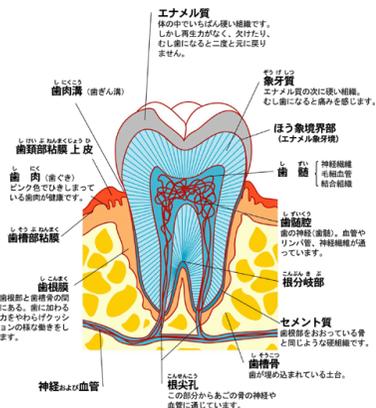
歯の痛みには歯の内部にある神経（歯髄組織にある神経）から起こる場合と歯の周り（歯根膜）から起こる場合があります。また、歯ぐき（歯肉）から起こる痛みもあります。そのため、神経を取った歯でも痛むことがあります。

一般に歯の神経に起こった炎症では痛みの場所を特定することは難しく、患者さんは原因となる歯以外の隣りの歯や上下反対側の顎の歯に痛みを訴えることがあります。ある疾患が原因で、一見その疾患とは無関係に思われる全身のいろいろな領域に生じる痛みを関連痛と言います。

歯と連関して痛みを起こす顔面部位として、上顎の前歯が原因歯の場合は、額の部分で、奥歯の場合は上顎および後方の側方部分や耳の部分となります。下顎切歯や犬歯が原因歯の場合は、オトガイ（下あごの先端）部分や下顎枝中央部分、耳や下顎の角部分、喉の上方部分となります。

反対に、頭部疾患や全身疾患が歯に関連痛を引き起こす場合もあります。そのような疾患として、上顎洞炎、筋・筋膜痛症候群、狭心症、心筋梗塞、噴門痙攣症、甲状腺疾患などが報告されています。そのため、歯の痛みの原因を複雑にしています。

心配なことがありましたら、かかりつけの歯科医師にご相談して下さい。



奥羽大学歯学部附属病院
総合歯科 教授 木村 裕一